

第1回 岬町住宅マスタープラン等策定委員会

議事説明資料

令和3年8月27日
岬町 都市整備部 建築課

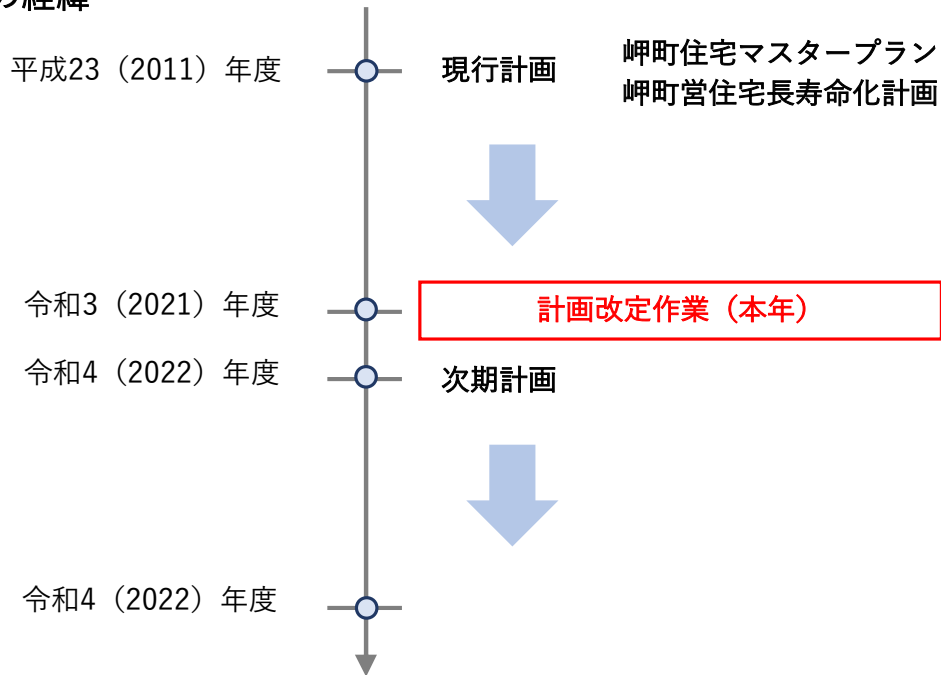
1

はじめに
(委員会の趣旨と計画概要の説明)

2

はじめに

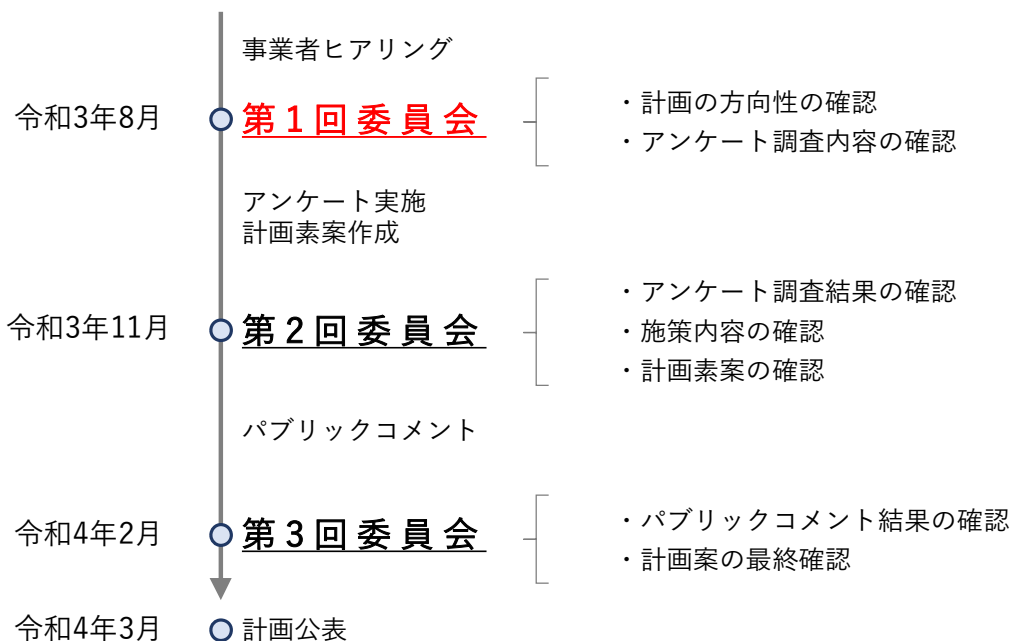
これまでの経緯



3

はじめに

委員会の開催予定



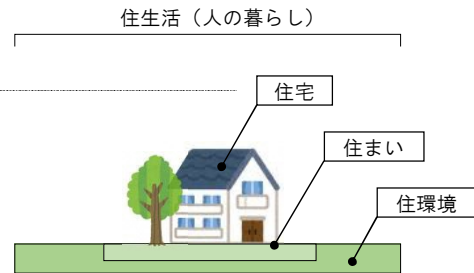
4

はじめに

住宅マスタープラン・町営住宅長寿命化計画とは？

岬町住宅マスタープラン

岬町で生活する住民の「豊かな住生活」を実現するために必要な施策に取り組むもの



岬町営住宅長寿命化計画

町営住宅に関する今後の維持管理の方針を示すもの

5

はじめに

住宅マスタープラン・町営住宅長寿命化計画とは？

まとめ（町内計画の位置関係）

〈上位〉



〈下位〉

第 5 次 岬町 総合計画

（岬町の最上位計画）

岬町住宅マスタープラン

（岬町の住生活に関する分野別計画）

岬町営住宅長寿命化計画

（岬町営住宅に関する個別の実施計画）

6

これまでの取組み（岬町住宅マスタープラン）

- 〈基本目標〉 「自然」・「ゆとり」・「人のつながり」
暮らしてみたい、暮らし続けたい、岬町での豊かなすまい・まち

住生活目標		指標	成果
1	若い世代が暮らしてみたくなるすまい・まち	定住意識	向上
2	自然な環境を活かしたこだわりの暮らしを実現できるすまい・まち	環境配慮設備の設置率	向上※1
3	誰もが安心していきいきと暮らし続けられるすまい・まち	バリアフリー設備の設置・改修	一部向上※2
4	安全で安心なすまい・まち	耐震性	向上
5	住民の居住の安定を支えるすまい・まち	公営住宅の改善・建て替え	一部達成

※1 一部調査で未達成

※2 当初の目標は未達成だが、向上はしているため指標を変えて再評価

7

これまでの取組み（岬町営住宅長寿命化計画）

〈達成できたこと〉

- ・修繕、点検の実施
- ・緑ヶ丘住宅の集約建替え（PFI事業）



〈達成できなかったこと〉

- ・町営住宅の改善事業（低層耐火改良住宅）

※維持管理する町営住宅

- ・木造公営住宅
2団地7戸
昭和20年代建設・平屋
- ・高層耐火公営住宅
1団地126戸
平成20年代建設・8階建て
- ・低層耐火改良住宅
2団地136戸
昭和50年代～平成元年代
2階建て（2戸1棟の長屋）

計 269戸

→補足資料3に詳細を記載

8

はじめに

改定に向けて（改定の考え方）

現計画の理念や考え方を継承したうえで、以下の内容を反映します。

- ① 現計画の取組状況や目標達成の状況
- ② 上位・関連計画や社会潮流
- ③ 岬町の住生活に関する実態
（統計情報・アンケート・ヒアリングにより把握）

計画で示したい方向性 （事務局案）

計画で示したい方向性

計画（住宅マスタープラン）において記載すること

① 目標・方針

- 方針：上位計画の内容を引き継ぐ
- ・みんなでつくる 恵み豊かな温もりのまち“みさき”
 - ・豊かな住生活の実現
- 目標：修正予定

② 目標達成に向けた施策

- ・補助金、情報提供、規制誘導などのルール作り等
- ・住民や事業者がまちづくりに参画する体制づくり

③ 戦略（重点施策）

④ その他

- ・計画期間や推進体制など計画の推進に必要な事項

11

計画で示したい方向性

住宅マスタープランの目標（住生活目標）

【人の視点】

目標 1

暮らしてみたい・暮らし続けたいと感じる
住まい・まちの実現

【住まい、住環境、まちの視点】

目標 2

安全・安心・快適な住まい・まちの実現

【住まいのセーフティネットの視点】

目標 3

居住の安定が確保された住まい・まちの実現

【協働の視点】

目標 4

住民・事業者・行政が協力する住まい・まちの実現

12

計画で示したい方向性

目標設定の考え方（住生活目標1）

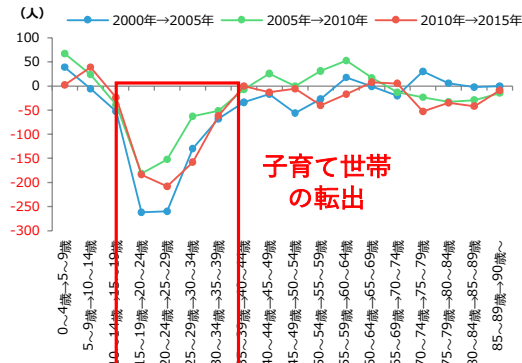
【人の視点】

目標1

暮らしてみたい・暮らし続けたいと感じる
住まい・まちの実現

〈移住者を対象とした考え方〉

- ・魅力を活かして、暮らしてみたいと感じてもらえるようなまちとしていくことが重要



〈まちの魅力〉

- ・自然とのふれあい
 - ・ゆとりある暮らし
- (日当たり・風通し・景観・静かな居住環境、治安)

※平成23年時の調査結果等を用いて仮作成

13

計画で示したい方向性

目標設定の考え方（住生活目標1）

【人の視点】

目標1

暮らしてみたい・暮らし続けたいと感じる
住まい・まちの実現

〈居住者を対象とした考え方〉

- ・不便を補って暮らし続けたいと感じる住宅やまちとしていくことが重要

〈まちの課題〉

- ・通勤、通学などの移動の利便性
- ・生活サービス施設（商業・医療施設等）
の立地といった生活利便性
- ・道路や公園の都市基盤

〈まちの魅力〉

- ・自然とのふれあい
 - ・ゆとりある暮らし
- (日当たり・風通し・景観・静かな居住環境、治安)

※平成23年時の調査結果等を用いて仮作成

14

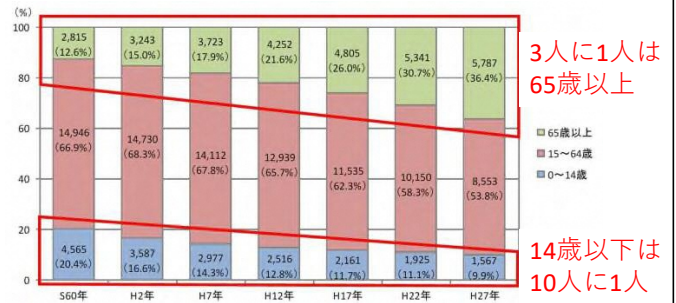
目標に関連する現況データ

少子高齢化の傾向

(年齢3区分別人口の推移)

- ・年少人口と生産年齢人口の割合が減少している一方、老年人口の割合は増加

→平成27年の結果においては、町内の住民の3人に1人が高齢者(65歳以上)。対して子ども(14歳未満)は10人に1人



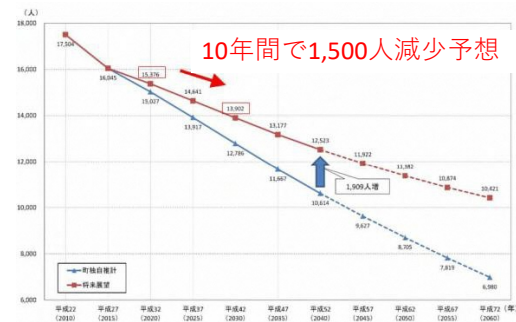
3人に1人は65歳以上

14歳以下は10人に1人

人口減少の見通し

(将来展望人口)

- ・2020年から2030年にかけて人口が1,500人(約10%)減少すると予想される



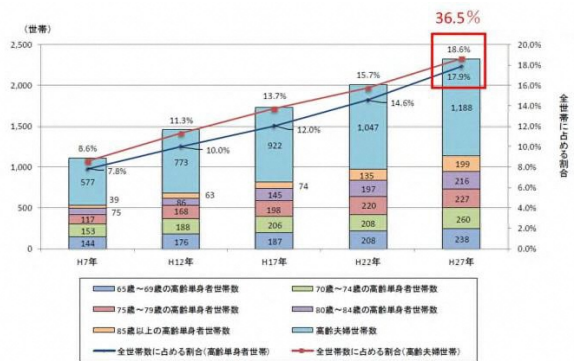
目標に関連する現況データ

高齢者世帯の増加

(高齢者世帯数の推移)

- ・高齢単身、夫婦世帯は全世帯数の36.5%を占める(平成27年)

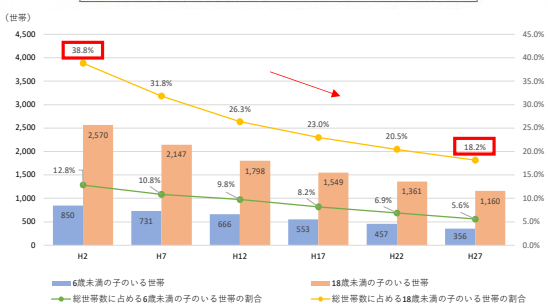
→町内の住宅の3軒に1軒は高齢者世帯



子育て世帯の減少

(子育て世帯の推移)

- ・18歳未満の子のいる世帯は世帯数の減少のほか、岬町の全世帯に占める割合も減少しており、平成2年には全世帯数の38.8%となっていたものが、平成27年には18.2%と半分以下まで減少しています。



計画で示したい方向性

目標に関連する現況データ

空き家の増加

(住宅総数の状況)

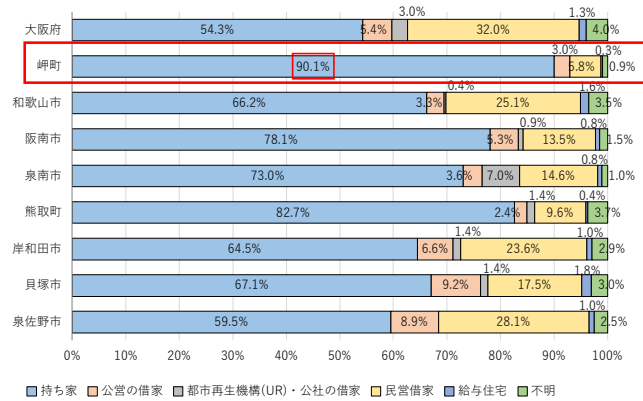
- ・住宅総数は平成30年時点で8,030戸あり、このうち17.9% (1,440戸) が空き家
- 町内の住宅の5軒に1軒は空き家

		居住世帯		住宅総数
		あり	なし	
岬町	住宅数	6,520	1,440	8,030
	割合	81.2%	17.9%	100.0%
大阪府	住宅数	3,949,600	709,400	4,680,200
	割合	84.4%	15.2%	100.0%

持ち家割合

(所有関係別住宅数の割合)

- ・岬町の住宅は約90%が持ち家であり、大阪府や近隣市町と比較しても高い割合
- ・反対に民間借家は5.8%であり、比較して低い割合



17

計画で示したい方向性

目標に関連する現況データ

公的賃貸住宅の需要は減少の見通し

(ストック推計プログラムによる)

- ・著しい困窮年収未満の世帯数に対する公的賃貸住宅の供給量は、計画満了年度において2.12の充足率となる

		2020年度	2025年度	2030年度	2031年度	2035年度	2040年度	
需要	著しい困窮年収世帯数 (A)	249	215	185	180	158	135	
供給	公営住宅の管理戸数	町営住宅	269	262	262	262	262	262
		府営住宅	120	120	120	120	120	120
	公営住宅計		389	382	382	382	382	382
	供給量合計		389	382	382	382	382	382
充足率		1.56	1.78	2.06	2.12	2.42	2.83	

新婚・子育て世帯の町営住宅応募

- ・新婚、子育て世帯の優先枠を設定しているものの、応募倍率は低くなっている。
- ・収入要件を超えている方の応募が見受けられ、岬町に住みたいが、住まうことのできる賃貸住宅が無いというような問題が想定される。

募集と応募の状況 (応募倍率)

	H29	H30	R1	R2
一般世帯	0.7	1.4	1.5	2.0
新婚・子育て世帯	0.2	0.9	0.3	0.2
福祉世帯	-	4.0	-	-
共通	-	1.0	-	-

18

計画で示したい方向性

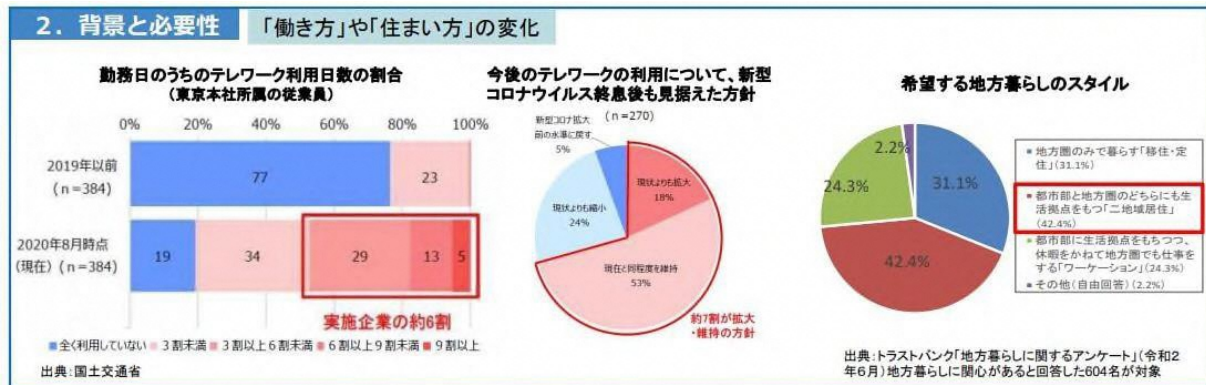
目標に関連する現況データ

働き方の変化（テレワーク）

- ・東京本社所属のデータであるものの、テレワーク利用日数の割合が3割以上と回答した企業は約6割(2020年8月)
- ・終息後も見据えた方針では、約7割が拡大、維持の方針

住まい方の変化（二地域居住・地方暮らし）

- ・地方暮らしの関心の高まりとともに、希望する地方暮らしのスタイルとして二地域居住が4割を占める



※国土交通省 二地域居住等関連施策のご紹介 (令和3年3月9日資料) より

19

計画で示したい方向性

目標設定の考え方（住生活目標2）

【住まい、住環境、まちの視点】

目標2 安全・安心・快適な住まい・まちの実現

〈住宅やまちの質を向上させる考え方〉

- ・災害に対する安全性
- ・ユニバーサルデザイン（バリアフリー）の広がり
- ・SDGs、環境問題への意識の高まり

（岬町の課題としては）

- ・空き家問題への対応
- ・便利なまちを作っていくこと

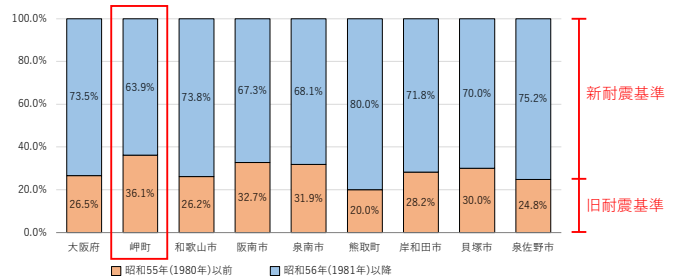
20

計画で示したい方向性

目標に関連する現況データ

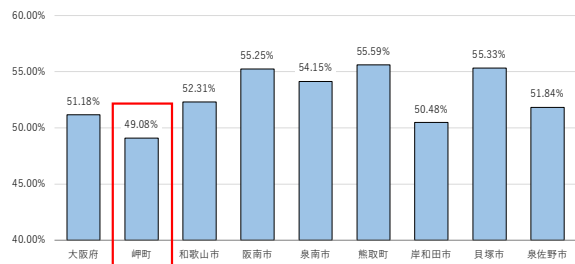
旧耐震基準の住宅が多い (建築時期住宅数)

- ・旧耐震基準の建物は減少しているものの、近隣と比べて古い建物の割合(オレンジ部分)が多い



バリアフリー設備の設置率が低い

- ・高齢者等のための設備の設置率は、近隣と比べて割合が低い



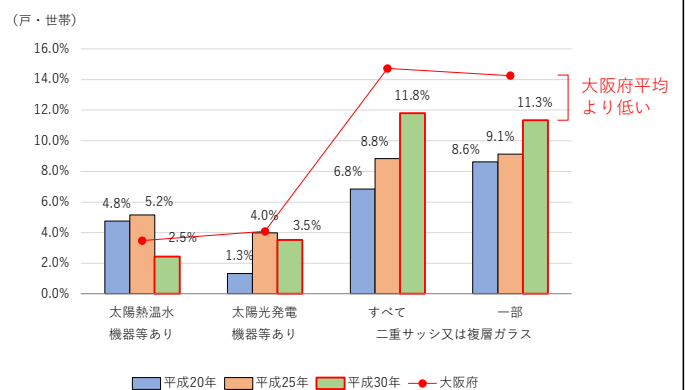
21

計画で示したい方向性

目標に関連する現況データ

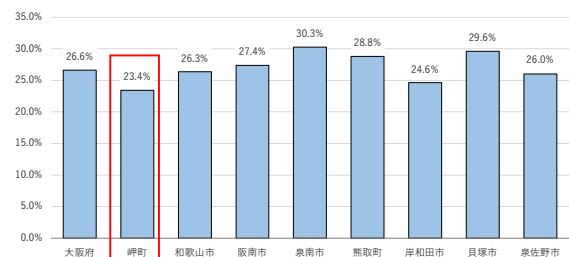
省エネルギー設備の設置率が低い

- ・省エネルギー設備の設置状況は、平成20年と比べると太陽熱温水機器等を除き、割合が増加しているものの、大阪府と比べて割合が低い



リフォームの実施率が低い (増改築及び改修工事の状況)

- ・リフォームの実施率は、近隣と比べて割合が低い



22

計画で示したい方向性

目標に関連する現況データ

空き家・空き地による都市のスポンジ化

- ・ 空き家や空き地が町全体に発生し、スポンジのように使われない土地や建物が発生
- ・ 道路が細く建替えられない、売れないといった問題も発生



23

計画で示したい方向性

目標設定の考え方（住生活目標3）

【住まいのセーフティネットの視点】

目標3 居住の安定が確保された住まい・まちの実現

〈住宅に困窮された方への対応の必要性〉

- ・ 高齢者（高齢単身・夫婦世帯）の増加
- ・ 民営借家への入居を断られやすい人たちの居住の安定
- ・ 被災された方の居住の安定

（特に）

- ・ 公営住宅や空き家を活用した対策

24

計画で示したい方向性

目標に関連する現況データ

入居希望者とのミスマッチ

- ・ 高齢単身、夫婦世帯の需要が増加すると考えられる中、ファミリータイプの住戸が67%
- ・ 若年世帯においては、収入要件を超えている方の応募が見受けられ、岬町に住みたいが、良い場所や住宅が無いというような問題が想定される（再掲）

住戸タイプ	面積			対応する世帯構成の目安						戸数			
	MIN	MAX	中央値	1人	2人	3人	4人	5人以上	申込基準	小計	割合		
2K	28	~	42.93	34.71	◎	○				1名以上	8	39	14.5%
1DK	42.93	~	42.93	42.93	◎	○				1名以上	31		
2DK	52.25	~	52.25	52.25		◎	○			2名以上	48	48	17.8%
3DK	62.38	~	62.38	62.38			◎	○		3名以上	32	182	67.7%
3LDK	69.9	~	99.9	69.9		◎	○	○	3名以上	150			

◎：住戸タイプ別入居人員の申込基準
○：住戸タイプ別入居人員の目安

25

計画で示したい方向性

目標に関連する現況データ

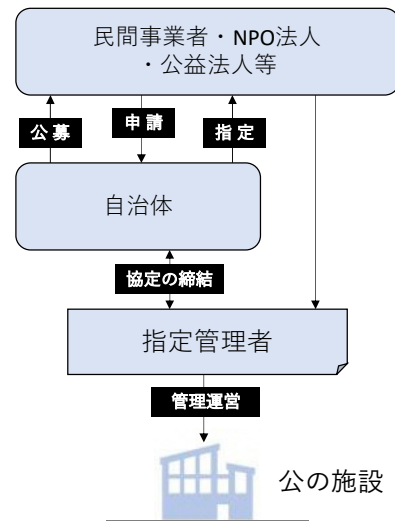
公営住宅ストックを地域資源として活用する取組み

- ・ 地域の需要に応じた施設を併設するなど、以下は府営住宅の取組み例



民間の力を活用した維持管理

例：指定管理者制度



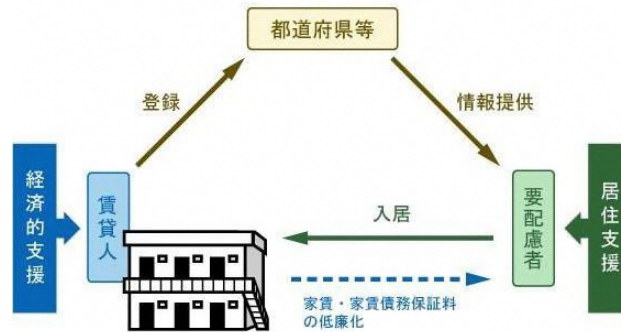
26

計画で示したい方向性

目標に関連する現況データ

要配慮者の入居を拒まない住宅（登録住宅）

- ・住宅確保要配慮者の入居を拒まない住宅として、都道府県・政令市・中核市にその賃貸住宅を登録することができる



※その他、登録住宅の改修や入居者への経済的な支援、住宅確保要配慮者に対する居住支援を合せて新たな住宅セーフティネット制度として2017年から開始されています。

27

計画で示したい方向性

目標設定の考え方（住生活目標4）

【協働の視点】

目標4

住民・事業者・行政が協力する住まい・まちの実現

〈協力体制により困難に立ち向かうという考え方〉

- ・人口減少下において行政サービスの向上は困難

（このため）

- ・まちのことを自分事として住民の方へ理解していただく
- ・民間の方とも力を合わせて取組を進めていく

28

計画で示したい方向性

目標に関連する現況データ

住民のまちづくりへの関心

- ・関心はあるが、参加する時間が無い方が多数を占める

調査数	353	100.0%
関心があり、積極的に参加したい	24	6.8%
関心はあるが、参加する機会がない	57	16.1%
関心はあるが、参加する時間がない	103	29.2%
関心はあるが、難しくてわからない	83	23.5%
関心がない	66	18.7%
無回答	20	5.7%

まちづくりへ参加するための条件

- ・活動内容や参加方法に関する情報提供があるが多数を占める
- ・次いで「町内で活動する団体・組織の情報交換の場がある」「活動に対する資金的支援がある」が続いている。

調査数	353	100.0%
活動内容や参加方法に関する情報提供がある	191	54.1%
活動場所や活用機材の提供がある	63	17.8%
活動に対する資金的支援がある	75	21.2%
活動のPR機会や情報発信の支援がある	54	15.3%
行政活動に代わって提案できる制度がある	27	7.6%
町内で活動する団体・組織の情報交換の場がある	77	21.8%
活動に対する専門家を紹介してもらえる	26	7.4%
まちづくりに関する研修や学習の機会がある	55	15.6%
その他	14	4.0%
無回答	71	20.1%

29

計画で示したい方向性

目標に関連する現況データ

官民連携による地域課題解決の機運

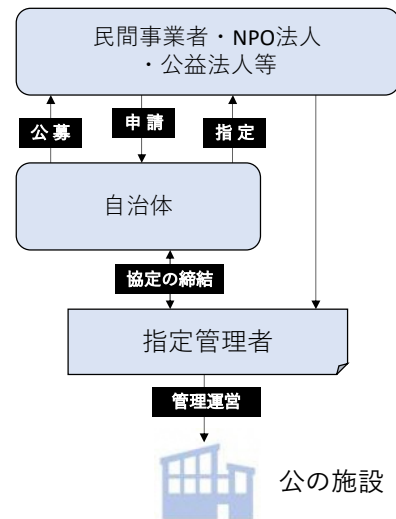
例) 地域未来構想20オープンラボ

- ・内閣府において「新しい生活様式」の実現等に向けて、分野別に①地方公共団体、②専門家、③関係省庁をつなぐことで、各地方公共団体における取組の検討や事業実施を支援



民間の力を活用した維持管理（再掲）

例：指定管理者制度



30

住宅マスタープランの戦略

取組みの視点

移住者の増加 関係人口拡大	2地域居住やワーケーションの推進	発信力の向上
居住者の 利便性向上	生活サービス施設の集積	
行政運営の 効率化	公共の担い手を拡大する	

実施にあたっての手がかり

ハード	空き家、空き地、公的ストックの活用
ソフト	情報化による利便性向上

戦略の考え方

		内部環境（町内）	
		強み(Strength)	弱み(Weakness)
		①豊かな自然環境、景観 ②広くゆとりある住宅と暮らし ③地域コミュニティ ④需要が低下する中、多くの公的賃貸住宅を有する ⑤大阪⇄和歌山を結ぶ鉄道経路上にあり、移動しやすい	①住宅市場、開発意欲の縮小・沈滞 ②通勤時間が長い ③生活サービス施設（買い物・医療施設等）が少なく、利便性が低い ④空家率の高さ、都市のスポンジ化 ⑤狭い道路が多い ⑥産業・企業が少ない
機会(Opportunity)		強み×機会「SO戦略」	弱み×機会「WO戦略」
外部環境（町外）	①ICT技術の普及、発展 ②環境問題への積極的な取組 ③ライフスタイルや価値観の多様化 ④官民連携、エリアマネジメント等の機運	2地域居住やワーケーションの推進 (①②⑤×①⑥) 公共の担い手を拡大する (③×④)	空き家、空き地の積極的活用 (①④×③④) 情報化による利便性向上 (②③×①)
	脅威(Threat)	強み×脅威「ST戦略」	脅威×弱み「WT戦略」
①少子高齢化や人口減少の更なる進展 (社会保障費増大・若年世帯減少、流出) ②都心への人口集中 ③自然災害の増加・多様化 ④地球温暖化の進行、自然環境の破壊 ⑤岬町の取組みや環境を知らない		公的ストックの多様な活用 (①②④×①②) 発信力の向上 (①②×⑥)	生活サービス施設の集積 (①③×①②) ※撤退戦略の場合、居住地の縮小も視野に入れる。

計画で示したい方向性

戦略の考え方

強み

×

機会



積極的攻勢戦略

- ・豊かな自然環境、景観
- ・広くゆとりある住宅と暮らし
- ・大阪、和歌山を結ぶ鉄道経路上にあり移動しやすい

- ・ICT技術の普及、発展
- ・ライフスタイルや価値観の多様化

二地域居住や
ワーケーションの推進

- ・地域コミュニティ

- ・官民連携、エリアマネジメント等の機運

公共の担い手を拡大する

計画で示したい方向性

戦略の考え方

二地域居住やワーケーションの推進について



計画で示したい方向性

戦略の考え方

弱み

- ・住宅市場、開発意欲の縮小・沈滞
- ・空家率の高さ、都市のスポンジ化

×

機会

- ・ライフスタイルや価値観の多様化



弱点強化戦略

空き家、空き地の積極的活用

- ・通勤時間が長い
- ・生活サービス施設（買い物・医療施設等）が少なく、利便性が低い

- ・ICT技術の普及、発展

情報化による利便性向上

計画で示したい方向性

戦略の考え方

空き家、空き地の積極的活用について

・シェアオフィス
前入居者が残した什器等を活用して、起業家向けのシェアデスクやオフィスを整備。



リノベーション



・インキュベーション型店舗
雑居ビルの1フロアを活用して、コワーキングスペース、会議室、入居者のための共有スペース等を整備。



リノベーション



・子育て支援施設
駅前の遊休地を活用して、広場、子育て支援施設等を整備。



空き地活用



・古民家宿泊施設
老朽化した京町家を活用して、宿泊施設を整備。



リノベーション



・ソーシャルビジネス拠点施設
雑居ビルの1フロアを活用して、デザイナーのためのスモールオフィスを整備。



リノベーション



計画で示したい方向性

戦略の考え方

空き家、空き地の積極的活用について



複数の土蔵や空き地をまとめて、定期借地を受け、まちづくり会社が地域活性化の拠点として活用



※長野市「ばていお大門」
立地誘導促進施設協定に関する先行事例 37

計画で示したい方向性

戦略の考え方

強み

・需要が低下する中、多くの公的賃貸住宅を有する

・豊かな自然環境、景観
・広くゆとりある住宅と暮らし

×

脅威

・少子高齢化や人口減少
・都心への人口集中

・岬町の取組みや環境を知らない



差別化戦略

公的ストックの多様な活用

発信力の向上

計画で示したい方向性

戦略の考え方

公的ストックの多様な活用について

鳥取県八頭町 旧隼小学校：コワーキングスペース・シェアオフィスやカフェ、物販スペースなど多種多様な企業が集まる複合施設



※文部科学省「廃校施設活用事例集」、隼Lab.ウェブサイトより

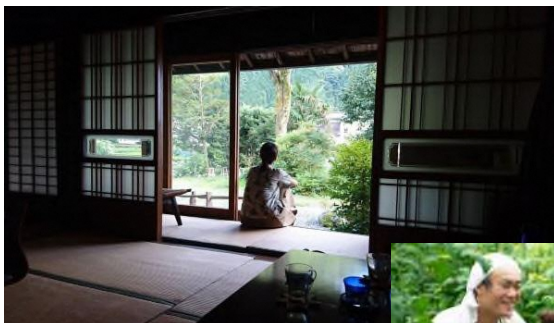
39

計画で示したい方向性

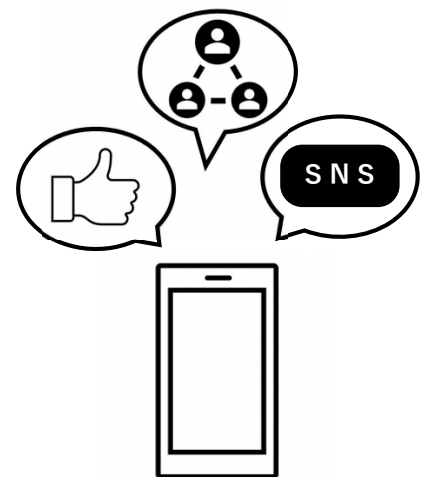
戦略の考え方

発信力の向上について

お試し居住



IT活用



40

計画で示したい方向性

戦略の考え方

弱み

- ・住宅市場、開発意欲の縮小・沈滞
- ・生活サービス施設（買い物・医療施設等）が少なく、利便性が低い

×

脅威

- ・少子高齢化や人口減少
- ・都心への人口集中



問題事態回避戦略

生活サービス施設の集積 …？

41

計画で示したい方向性

戦略の考え方

生活サービス施設の集積について



もっと便利に！

スマホのアプリを使って経路検索・予約・支払いまで一括利用ができる



42

計画で示したい方向性

まとめ（議題1について）

4つの住生活目標

【人の視点】

目標1

暮らしてみたい・暮らし続けたいと感じる
住まい・まちの実現

【住まい、住環境、まちの視点】

目標2

安全・安心・快適な住まい・まちの実現

【住まいのセーフティネットの視点】

目標3

居住の安定が確保された住まい・まちの実現

【協働の視点】

目標4

住民・事業者・行政が協力する住まい・まちの実現

43

計画で示したい方向性

まとめ（議題1について）

戦略－3つの視点と実施にあたっての手がかり

取組みの視点

移住者の増加
関係人口拡大

2地域居住やワーケーションの推進

発信力の向上

居住者の
利便性向上

生活サービス施設の集積

行政運営の
効率化

公共の担い手を拡大する

実施にあたっての手がかり

ハード

空き家、空き地、公的ストックの活用

ソフト

情報化による利便性向上

44

今後の調査について (アンケート調査の実施について)

46

今後の調査について

アンケートによる住民ニーズの把握

岬町住宅マスタープランの策定に向けた住民ニーズの把握

→住民アンケートの実施

岬町営住宅長寿命化計画の策定に向けた居住者ニーズの把握

→町営住宅居住者アンケートの実施

47

今後の調査について

住民アンケートについて

〈 実施方法 〉

時 期：令和3年9月6日(月)配布、9月21日(火)締切（予定）

対 象：20歳以上の住民1,000人を無作為抽出（年代・地域に配慮した層化抽出）

方 法：郵送配布、インターネット回答及び郵送回収

回収率：約60%を想定

〈 調査で把握する主要な内容 〉

- ・住宅に対する評価・居住ニーズ
- ・継続居住、住み替え意識

※本アンケートは、前回の計画時にも実施していることから、内容を踏襲した構成とします。

48

今後の調査について

住民アンケートについて

詳細は
補足資料5-1、
補足資料5-2を
ご確認ください。

分類	問	質問	備考
回答者属性	1	性別・年齢	大きな変更は行いません。
	2	居住歴	
	3	転入時期	
	4	居住地	
	5	職業	
	6	勤め先・通学先	
	7	家族構成	
	8	世帯人数	
	9	高齢者、介護・支援が必要な家族の人数	
現在の住まいについて	10	居住する住宅の種類	新規追加項目 1：満足度の確認項目を利用し、住民が重視する内容を把握します。本結果は優先して取り組む施策の検討材料とします。
	11	現在の住宅の建築時期	
	12	住宅の広さ	
	13	住宅の構造	
	14	住宅の満足度	
	15	住宅において重視する内容【新規追加1】	
	16	住環境の満足度	
17	住環境において重視する内容【新規追加1】		
居住状況の変化について	18	新型コロナウイルス感染症拡大後の生活の変化【新規追加2】	新規追加項目 2：新型コロナ拡大後の住民生活の変化を確認します。
	19	最近10年間の居住の変化	
	20	住宅が変化した理由、住み替え先を選ぶ上で重視した点	
	21	以前の住宅の場所、種類、移転先を探すときに不便だった点【新規追加3】	
これからの住まい方について	22	今後の住まいへの意向	大きな変更は行いません。
	23	建て替えや住み替え、リフォームを行う理由	
	24	家を住み替える場合の意向（居住形態や立地、住み替える場合の問題点）	
	25	リフォーム内容の意向	
老後の住まい方	26	子世帯や親族との暮らし方	大きな変更は行いません。
	27	将来の住宅区分について	
住宅施策について	28	今後の住宅対策について	新規追加項目 4：住民が考える今後の地域のあり方を確認します。
	29	地域の今後のあり方【新規追加4】	
自由記述	-		

49

今後の調査について

町営住宅の居住者アンケートについて

〈実施方法〉

時 期：令和3年9月6日(月)配布、9月21日(火)締切（予定）

対 象：町営住宅入居者

方 法：ポスティング配布、インターネット回答及び郵送回収

回収率：約80%を想定

〈調査で把握する主要な内容〉

- ・住宅の改善意向
- ・住み替え意識

50

今後の調査について

町営住宅の居住者アンケートについて

詳細は
補足資料5-3、
補足資料5-4を
ご確認ください。

分類	問	質問
回答者属性	1	お住いの町営住宅名
	2	世帯人数
	3	18歳未満・未就学児、高齢者、介護・支援が必要な家族の人数
	4	自動車・バイク・自転車の所有
現在の住まいについて	5	お住いの町営住宅名
	6	入居時期（年数）
	7	入居の理由
今後の住まいについて	8	継続居住の希望
	9	住み替えを希望する住宅、住み替える場合の問題点
住宅の改善に関する内容について	10	改善に関する意向
	11	住宅で改善が必要な部分、優先する内容
	12	住宅以外の敷地内で改善が必要な部分
	13	家賃上昇に関する意向
町営住宅でのペット飼育について	14	ペット飼育の意向
公営住宅の新たな取り組みについて	15	維持管理業務の委託に関する意向
	16	併設施設等の意向
自由記述	-	

51